

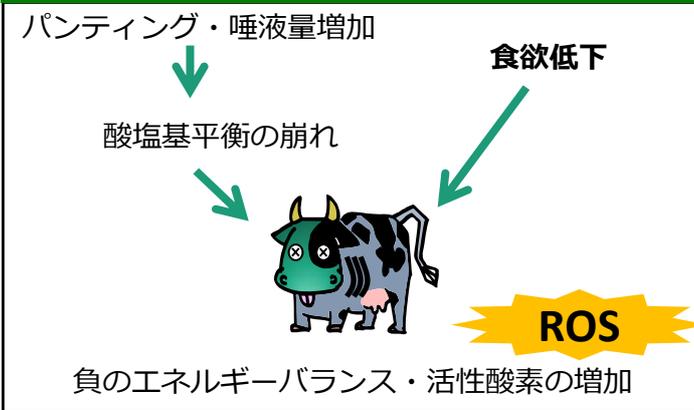


北海道でも暑さが厳しくなってきました。前回に引き続き、ヒートストレスをトピックにお送りします。今回紹介する文献は、夏場に受胎率が低下するメカニズムをまとめたレビューです。

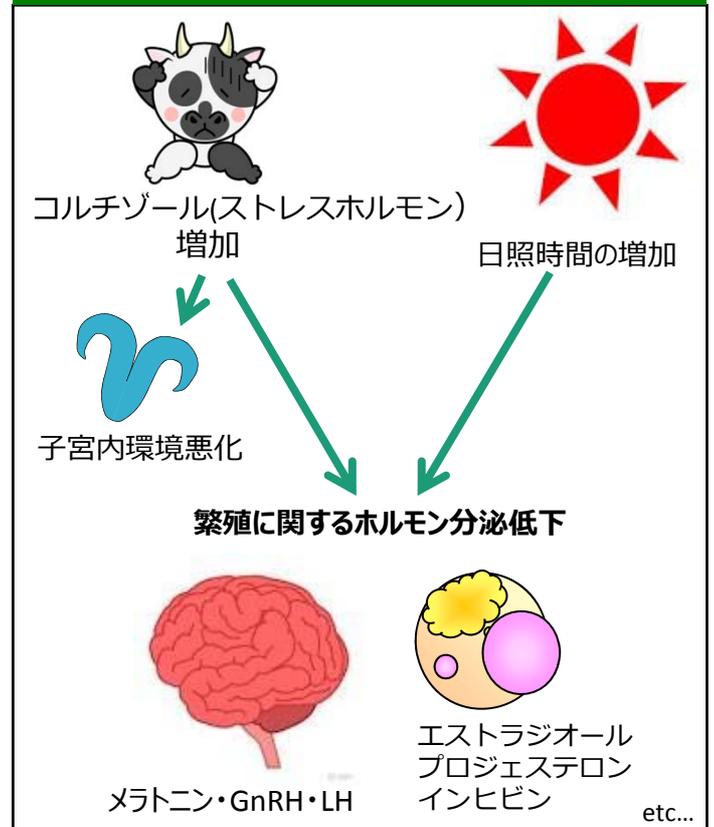
暑熱期において乳牛で受胎率が低下する要因

乳牛における暑熱期の受胎率は、日頃と比べ20-30%低下することが報告されており、繁殖成績低下の大きな要因となっています。暑熱期における受胎率低下には様々な要因があり、大きく分けると代謝への影響と内分泌系への影響が挙げられます。本レビューでは、各項目に分け、受胎率低下のメカニズムについてまとめています。

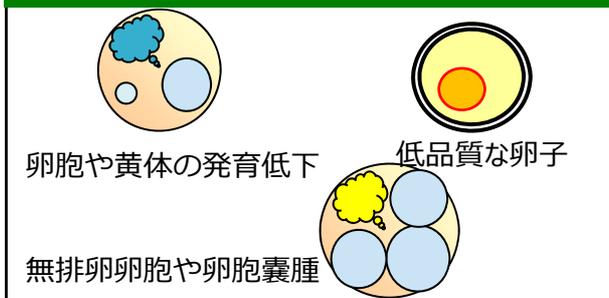
代謝性変化



内分泌性変化



卵巣への影響



臨床的帰結

- 発情兆候が発見しづらい
 - 発情してから排卵するまでの期間にバラつきが生じる
 - 無発情期の延長 = 妊娠間隔の延長
- 人工授精の失敗

夏場の繁殖性低下

温暖化が危惧されるなか、繁殖性を維持するにはヒートストレスへの対策は重要なポイントだと考えられます。前回ET研究所ニュースで紹介しましたクーリングシャワーなど、できる範囲内での対策をとり、ヒートストレスによる影響を少なくする取り組みが必要とされます。